

独立行政法人航空大学の平成 29 事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が達成され、国土交通大臣による平成 29 年度の総合評価が「B」評価であったこと等を踏まえ、役員の新任等は行われなかった。
----------	--

2. 法人の運営、予算への反映について

評価項目	平成 29 年度評価における主な指摘事項	平成 30 年度及び令和元年度の運営、予算への反映状況
国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績に影響を与えることなく、FTD シラバスの効率化を図ることができたとの評価だが、仙台フライト課程の追加教育が増加傾向にも見えるため、もう少し時間をかけて評価した方がよいのではないか。</li> <li>・いろいろと新たな取り組みを実施されているが、出願時にアンケート調査を実施し、入試情報を知ったきっかけ等を分析することにより、広報活動の更なる効果が望めるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練シラバスの見直しについては、追加教育対象者数が増加傾向にあるため、今後も継続的に評価・分析を実施して参ります。</li> <li>・令和元年度以降の受験者に対してアンケート調査を実施し、今後のより効果的な広報活動の検討に活かして参ります。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の質の向上のためには、教官の質の向上が重要であるため、今後もしっかりとした対応を進めて頂きたい。</li> <li>・（航空思想の普及・啓発のための行事について、）毎年積極的に活動して頂いているので、今後も継続して頂きたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育従事者に対しては各種の研修、講演会、セミナー等教育技法等の向上のための研修、並びに教官相互の教育訓練オブザーブを実施し、教官の質の向上を図っているところ、今後も継続して参ります。また、資格取得率の改善を目的に教育訓練検証WGを設置し、教育訓練オブザーブやICレコーダーの活用等による教育訓練の実態把握、退学者の傾向分析、教官会議における教育方法等に関する意見交換等といった既存の取組の強化・促進を図ります。</li> <li>・航空思想の普及・啓発のための行事について、平成30年度は新たに航空自衛隊新田原基地主催行事「新田原エアフェスタ」への出展を行い、活動の充実化を図りました。今後も継続して積極的に活動するよう努めます。</li> </ul>
業務運営の効率化に関する事項	なし	
財務内容の改善に関する事項	なし	
その他の事項	なし	